

# 特別区なら「喜治塾」 短期合格なら「喜治塾」



特別区I類（東京23区・大卒採用試験）の事務職の合格を目指すための講座です。

## 対象

- ・悩んでいるうちに大学3年生の春にスタートを切り損ねた方
- ・部活やサークルで忙しく、引退して11月頃から間に合わせたい方
- ・すでに社会人として仕事を持ちながら受験を考えている方

## 特長

- ・特別区I類に合格することだけを考え、特別区I類の出題傾向にしっかりと照準を合わせた講座だから、短期で合格できる。
- ➔よくある「地方上級・国家一般職」という分類の仕方で勉強を進めると全く出題されないようなことまで勉強をする結果となり、効率が悪すぎます。それでは短期合格はできません。それどころか、出題もされない難しい部分で悩んでしまい、結局その部分で挫折してしまっている人がいます。これはおかしいです。予備校側の事情で、合格しにくくさせてしまっているようなものです。

## Q&A

Q 特別区に照準を合わせてしまうと併願がしにくくなるのではないですか？

A よくあるご質問です。2つのことをお伝えします。

1 択一試験の科目の出題の難易度で見ますと、県庁や国家一般職よりも特別区は基本的な簡単な出題が多いという特長があります。もしあなたが特別区を第一志望しているなら、まずは抑えるべきは特別区の出題傾向にあった問題です。それさえできれば合格できるのに、出題もされない難しい問題で四苦八苦し、時間をかけて、本来やらなければ問題をこなす時間がなくなってしまっただけでは元も子もありません。万が一、特別区に落ちた時の抑えとして（滑り止めとして）、併願を考えて、特別区よりも難しい問題をやっておくこととなります。たしかに、難しい問題も含めて幅広く勉強する時間があるのであればそれも一方法です。しかし、短期で合格をするのには有効な方法とは言えません。

2 特別区の出題は「簡単」というよりは正確には「基本的な出題」です。実はこの部分をしっかりと抑えておけば、いろいろな試験にも合格してしまいます。喜治塾でも特別区を第一志望にしている方が、県庁や国家一般職にも合格しています。つまり、特別区に照準を合わせた勉強は、「しっかりと基本を抑える」ことになり、結果としては、いろいろな試験に合格してしまいます。

特別区に合わせた「短期合格のカリキュラム」  
WEB ガイダンスは [こちら](#)→

